

# 向かい合って畏敬あり、その姿



## 巨樹

齋藤歯科医院院長

齋藤 利明

山形県内の巨樹に会おうと思ったのは、昭和六十三年度に環境庁が行った「巨樹・巨木林調査報告書（緑の国勢調査）の中間発表を見てからである。子供の小学校の夏休みの自由研究が前年は「最上三十三観音巡り」だったので、この年は県内の巨樹ベスト3を調べようと思ったのである。子供と県内を巡り、一日三〇〇<sup>歩</sup>を超したこともあった。子供は始め面白がっていたが、だんだん飽きてきた。逆に私の方は、のめり込ってしまった。

さて大きな木は、巨樹・巨木・大木・太い木・名木・銘木等と言われているが、巨樹とはどれくらい太い木を言うのであろうか。先の報告書によれば「地上から約一三<sup>メートル</sup>の位置での幹周（囲）が三<sup>メートル</sup>以上の樹木、またはこれらが成育している樹林・並木等、なお、地上から約一三<sup>メートル</sup>の位置において幹が複数に分かれている樹木の場合には、個々の幹の幹周の合計が三<sup>メートル</sup>以上であり、そのうちの主幹の幹周が二<sup>メートル</sup>以上のものである」となっている。つまり大人の胸ぐらいの

高さで、直径が一<sup>メートル</sup>の木という事である。しかし、計測する時にもいろいろ問題がある。単木だと計りやすく、株立（根元から多くの幹が分かれているもの。カツラ等）のものは巨大な数字になってしまふ。幹周を計る位置に巨大な瘤<sup>こぶ</sup>があったり、逆に欠損があれば大きくデータが違ってくる。根元の土がなく、どこから根なのか不明な場合、斜面や崖に生えている場合など数値が大きく変わってくる。公表されたその結果は、県内には巨樹八百三十七本、巨木林では樹林八十九カ所、並木七十七カ所が確認された。しかし、私がいまいるいる回った感じではまだまだ多くの巨樹がある。

数多くの木々の中で巨木になる性質を持つのは、クスノキ、スギ、ケヤキ、イチヨウ、マツ、サクラ、カヤノキ、ビャクシンが挙げられる。県内には暖かい地域で育つクスノキ（鹿兒島・蒲生の大クスは幹周二四・二<sup>メートル</sup>で国内最大の巨樹）とビャクシン（小豆島・宝生院のシンパクは幹周一六・六<sup>メートル</sup>）の巨樹はな

い。よく聞かれる質問で「樹齢」がある。記録に残っていればはつきりするが、ほとんどは推定になる。その樹の近くで伐採された同種の樹の年輪で推測する場合が多い。米国では学問体系が出来ていて、幹に細い管を通し、くり貫いてきた年輪で正確に計る方法があるそうだ。

県内を大まかに四地区に分け特色や私の思い出に残る巨樹を探訪してみよう。庄内ではやはり、羽黒山のスギ並木（特別天然記念物）である。「日光杉並木街道」と並び称されるものだ。その中心となるのは国宝五重塔に並ぶように聳えている「爺スギ」だと思ふ。この木を含めて県内に国指定天然記念物は六件あり、その内五件が庄内にある。鶴岡市水沢・熊野神社の大スギと温海町・山五十川の玉スギを見たときには圧倒的な樹姿と重量感に畏敬を感じた。ケヤキの巨樹が至る所に散見されるが、鶴岡市文下のケヤキの樹肌の美しさは特筆される。ケヤキは家具・食器など応用価値が広く、早く伐られてしまいやすいのだ

## 県内全国一の巨樹（2000年7月現在、齋藤調べ）

ケヤキ	東根市東根小学校、国・特別天然記念物 「東根の大ケヤキ」幹周り12.6m、樹高28m
マツ	最上町東法田、県指定天然記念物 「東法田の大アカマツ」幹周り7.5m、樹高22m
ヤナギ	戸沢村津谷、村指定天然記念物 「津谷の大ヤナギ」幹周り7.7m、樹高22m
クリ	西川町大井沢山中 「大井沢一の大グリ」幹周り8.5m、樹高15m
クロベ	大蔵村赤松 「岩神大権現のクロベ」幹周り12.2m、樹高25m
カツラ	真室川町乃位男甌山中腹 幹周り20.2m、樹高30m



幹周り 9.1m、樹高 28m  
国指定天然記念物  
鶴岡市文下「文下のケヤキ」

## 齋藤 利明

齋藤歯科医院院長  
昭和20年8月20日山形市生まれ  
東京歯科大学卒業大学院修了・歯学  
博士。昭和52年齋藤歯科医院開業。山  
形県歯科医師会理事。岩手医科大学非  
常勤講師。昭和63年より巨樹探訪。趣  
味は落語・オールディーズ。  
FAX: 023(632)4912

が、庄内では昔から大切に保存されてきたのだらう。もう一つの特徴は海風に強いクロマツが多数見られる。村山地区にないものとして、温暖な地に育つタブノキの巨樹が、内陸の者には珍しい。

最上八市町村は、日本一や最大級の巨樹が目白押しだ。自然が多く残っているし、それを大切にしている人が多いからだ。特に最上町「東法田の大アカマツ」は、日本一に認められる前は整備されていなかったたので、大変苦労して会ったことを思い出す。もう一つ、金山町の人工林の大美林の大スギの群生は宝

だと思つ。村山地区は広いので、県内巨樹の四割を占めているが、県一位は、大江町・神代カヤと山形市霞城公園のサイカチだけだ。しかし、神社仏閣が多く、そこには多くの巨樹が見られる。置賜は、圧倒的にエドヒガンザクラの多い地域だ。ほかにクリやイチヨウも多く、さらに飯豊や朝日の山々には、ブナ、ナラ、カツラ等の巨樹がまだまだありそう。これらの巨樹や銘木を巡るツアーや観光企画がある。特に最上地区では最上山岳会の坂本俊亮さんを中心に、「最上エコーポリス巨木王国」をつくり、日本一の巨樹発見と現在確認されている巨樹巡りのツアーを精力的に推進している。西川町も日本一のクリと月山夏スキー、ワインと地ビールを組み合わせたツアーをしている。南陽・長井・白鷹にはサクラの巨樹銘木が多く残っており、これらを巡る「置賜サクラ回廊」やバスによる「まほろば桜街道」は、今やサクラの時期には無くてはならない催し物となっている。

現在残っている巨樹や名木でまだまだ元気なものもあるが、その多くは傷んでいる。自

然と歴史は金では買えないように、巨樹も一度失うと再び得ることは不可能である。環境が変わったり天変地異が起っても逃げることも出来ず、じつと耐えるか、それに合わせて生きて行かなければならない。私は、植物の専門家でもないし、樹木医でもない。私の出来ることは、それらをまとめたり、それを機会ある度に公開していくことだと思つ。自分の身近にある樹がどれぐらいなのか、かなり太いけれど何番目くらいなのかを知りたい方や巨樹に出会ったが新発見なのか知りたい方も連絡して下さい。

私は巨樹に向かい合つて、「風雪に耐え、周囲に逆らわず、しかし、自分をしっかりと主張している。その姿に畏敬あり」の気持ちを持ち、いつまでも永承らえて欲しいと手を合わせている。